



千坂小学校

所在地：金沢市千木1丁目125番地

話：076-258-1270

F A X：076-258-0378

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/chisaka-e/>

校長名：下川秀一

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	112	124	99	120	117	113	5	690
学級数	4	4	3	4	3	3	3	24

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他					
職員数	1	1	4	4	3	4	3	3	3	7	1	2	1	3	40

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取組

朝学習の時間や補充の時間（3年以上週45分）を設定したことは、漢字や語句の読み書きの習熟、計算力の定着を図るために有効であった。また、読書や読み聞かせで、本に親しむ児童が増え、朝休みや昼休み等には静かに読書する姿がよく見られた。

国語辞典を常備することで必要に応じ授業中に児童自ら検索する姿が見られるようになってきた。また、教室環境整備として地図・地球儀を設置したことにより、必要に応じ授業の中で都市、地域、国の位置確認をしてきた。しかし、児童の地図帳の使用に関しては、辞書に比べ活用する頻度が少ないため、基本的な見方や活用する力はまだ十分ではない。

(2) 活用する力の育成に向けた取組

授業の中で「書きまとめる活動」を日常化することで、表現することへの抵抗感を減らしてきた。各種校内コンクール（校内読書感想文・夏休みチャレンジ発表会等）を全学年で実施し、児童の自己表現の場を設定してきた。自分の考えを目的や意図に応じて文章にしたり、効果的な伝え方を意識したりする児童が増えてきた。しかし、全体にそのよさが波及していないことから継続して取り組む必要がある。

問題解決的な学習過程（「つかむ」「考える」「深める」「まとめる」）を意識し授業づくりを行ってきた。概ね児童にも学習スタイルは定着しているが、学んだことを次の学びに活かそうとする姿勢がまだ十分であるとは言い難い。教師側として教科として学んだ知識がどう次の学びに活用できるか、つながりを意識した単元構成を今後より一層重視していく必要がある。

2 学力等の現状分析

平成23年度県基礎学力調査結果から以下の点において本校は今後努力していく必要がある。

(1) 国語科

聞き取る力は概ね良好である。しかし、「問いかけ」の段落を見つけることや、筆順の理解に課題がみられる。さらに「主語」「述語」の関係の理解やローマ字（大文字）の読み書きについても課題がみられる。

(2) 社会科

地図記号や町の索引など基本的な地図帳の使用法は身につけている。しかし、縮尺や石川県の市町の数などを問う設問では、昨年同様課題がみられる。論述問題の無回答率は昨年に比べ減ってはきているが、正答率としては低い。複数の資料を関連させて記述することや具体的な特徴を説明することに課題がみられる。

(3) 算数科

領域では、数と計算（小数の引き算、分数の足し算）やグラフの作成が概ね良好である。しかし、図形の性質や水のかさの量感についての理解では課題がみられる。文章題の場面把握や情報を取り出し、言葉や式を用いて筋道立てて説明することに課題がみられる。

(4) 理科

領域に関わらず基礎・基本となる知識・理解の習得に課題がみられる。特に「物質とエネルギー」と「地球と宇宙」の領域の理解が不十分である。また、用語を適切に用いて表現したり、論

理的に思考したりすることにも課題がみられる。

(5) 質問紙調査

4年生では平日1時間以上家庭学習を行っている児童が6割以上である。授業では、図書室を利用することや、情報機器を活用することを好む傾向にある。また他教科に比べ音楽を好む児童が多い。また、授業の中で「自分の考えを発表したり話し合ったりすること」に対して自信を持って「好き」といえる児童が少ないことも課題である。テレビやゲームをする時間については4年連続多く、本校の抱える問題点である。

3 学力向上の取組

(1) 授業に関して

ア 研究主題・副題の一新

「主体的に考え、学び合う子をめざして」一言語活動の充実を通じた教科指導のあり方の一テーマのもと、教科としてつきたい力を明確にし、そのための言語活動の場のデザインを工夫することで児童の思考力・判断力・表現力の伸長を図る。本年度は国語科を中心に研究を進める。

イ 授業力向上

授業を見合う週間や学年での教材研究日を設定することで、授業力の向上を目指す。さらに学校研究レポートを作成したり、研究通信を発行したりすることで互いに実践を交流し、教師としての資質向上に努める。

ウ 児童の実態把握

授業冒頭や終末に知識・技能の定着を確認する場を設定する。理科・社会に関しては複数単元学習後、小プリントを作成し、確かな知識・理解の習得を図る。

エ 条件をつけた言語活動の設定

ふりかえりやまとめなど書く際に制限を設ける（三文で・百字以内）。必要な条件を満たし書き表す力を育成することをねらいとする。

(2) 学習環境に関して

ア 学力向上タイム

朝学習の時間（毎日15分）、補充の時間（3年以上週45分）や火曜校時（放課後30分）の充実を図ることで、基礎学力の定着を図る。また全校で詩や名文の視写を共通で取り組む。音読や暗唱と連動させることで言語感覚を養う。

イ 国語辞典・地図帳の使用

国語辞典を常時携帯し、朝学習や授業の中で語彙を増やす活動を継続していく。また、新出漢字の読み書きや筆順を丁寧に指導し、既習の漢字を含めた練習とテストを実施していく。また、地図帳も常備し、必要に応じていつでも活用できるようにする。教室内にも学年に応じた地図や地球儀などを常設し、学習環境を整える。

ウ 学習規律の徹底

話形表（発言の仕方）や学習の約束（5つの約束）を掲示する。学習規律の徹底を行い、活用の場づくりを工夫する。

エ 家庭学習の時間

学習時間の目安を〈10分×学年〉とし、家庭学習を充実させる。児童の実態に応じた課題の工夫を行う。

オ 評価語彙の指導

「ちさか感想言葉」をノートでの振り返りや感想文などで使用する。系統的に指導することで語彙力を養う。

カ 校内環境の整備

市町村の名前、英単語、ことわざ等を階段下や廊下に掲示する。学習コーナーも併設し目に触れさせることで児童の知的好奇心を触発する。

4 その他の取組

自問清掃

清掃中、しゃべらないようにすることで自分をみつめ、その仕事ぶりに自分の成長を自覚させる。自問清掃を通して、学習や生活の中でも粘り強く努力する心や思いやりの心、創意工夫する心を育てる。